

特集

町政あんない

情報コーナー

まなびすと

キラリ健康ナビ

わいわいプラザ



海藻の歴史

スーパードと注目される海藻。世界各地のすぐれた海藻料理、海藻食文化の豊かな歴史をたどる。日本の海藻については一章をさいして詳述する。巻末にレシピ集付き。

カオリ・オコナー 著 (原書房)



パパ入門ガイド

家族を笑顔にするための育児書。これからパパになる人や、3歳くらいまでの子どもをもつパパに、子育ての知識やスキル、産後不安定なママとのコミュニケーションのとり方、家庭と仕事を両立させるコツなどを紹介。

ファザーリング・ジャパン (池田書店) 著



海馬の尻尾

人間、どこまで変わるのか。3年前に2度目の務めを終えた及川は、その酒乱を見るに堪えかねた若頭にアルコール依存症を治すよう命じられる。検査の結果、「良心がない」とまで言われた及川だが…。

荻原 浩 著 (光文社)



児童書

うちゅうはきみのすぐそばに

(3~5歳向け)

空の上にある宇宙は、どのくらい遠い場所なのでしょう？地面の上からピルの最上階の高さ、建物のない高さ、雲の上、地球と宇宙のさかいめと、順を追って宇宙までを描きます。巻末に絵の解説つき。

みねお みつ 絵 (福音館書店)

豊山俳句クラブ

青山克己 選

紅をひく手のかじかみし朝かな 谷崎 琴

夕映えに影の整ふ千大根 岡島 齋

木枯しが村にサーカスつれて来る 高木須磨子

悴みて見上げる月の大きかり 田村多喜子

「卒業ね」女医のひとこと十二月 坪井昭子

ひとすじのひかりさしこむ冬座敷 杉浦みどり

豊山歌壇

水野笑子 選

小春日の今日も友とのお茶をする 佐藤 良子

永年の友愛を謝し終へる「フラ」 柴田 満枝

カビバラの露天風呂には人間と 同じ生き方惚けし顔は 鈴木 久子

まづ笑ふ健康を謝し有難うの 言の葉叫びゆつくり歩まん 鈴木 弘香

初日の出刻はゆるりと満ちて来し 小塚 美枝

雑踏を熊手もち上げ初参り 平手 英信

冬耕や黒き大地の息吹かな 坪井 径子

七草を水にさらして香り立つ 青山とも子

常の日の常のままなる根深汁 水野 眞弓

冬木立透けて朝日に力満つ 山下 敬太

遠野には雪が言葉となり積り 石黒貴代子

湖上にはミニヨット幾艘競ひをり 中澤 芳子

八十五歳健康体操「がんばるよ」 水谷 弘子

柩にはあなたに似合ふ紫の カトレア一本胸元に置く 佐藤愛子の元氣にならふ 水野 勝代

明晰な意識のままに生を閉づ 米寿の人を羨しと送る 山田 米

雲はなく見渡すかぎり青澄みて 千し物いつばい千したる日曜 渡辺トヨ子

蒲公英は綿毛もあるく風を待つ 勢揃ひして公園の丘に 荒川 昌枝

編集後記

「コロツケが来たよ」と聞いた被災者が喜んで駆け寄ると、そこにはものまねタレントのコロツケさんが。少し期待外れな表情で「あんただったの」。東日本大震災発生後、避難所に駆け付けたコロツケさんの笑い話である。▼震災から十日後の避難所で炊き出しを手伝っていたコロツケさんに、被災者が何か芸を求めてくる。「今は大変なときですし…」と躊躇すると「私、もう十日間も笑っていないの」。その期待に恐る恐る応えると、近くの方も笑ってくれて、小さな笑いの輪がそこに生まれた▼まだ緊張感が張りつめていた避難所に、あたたかな空気が流れ始めたように感じたそう。その光景を見てコロツケさんは「このために僕はものまねをやっていたんだ」と心のつつかえがとれた気がした、と記している▼何のために働くか。お金のため、だけではいずれ行き詰まる。人は、他の命を頂かないと生きていけない。牛や豚は無論、野菜も広い意味では命である。であれば、自分の人生も少しでも周りのためになる生き方をしたい▼コロツケさんは、冒頭の一事件以来、皆さんをがっかりさせないように、被災地を訪れる際には「食べるコロツケ」も持参しているそう。